

輝け！シン尾花沢中

つたえゆかしい 校章よ おおむつましく 丘かげに

タイトルデザイン
教育指導室
伊藤瑞稀さん

来年度から共に生活します！～1年生、福原中との交流会～

6月30日（月）に、本校1年生80名と、福原中1年生17名との交流会が、次の目的で行われました。

- ①来年度統合を控え、双方が不安なく学校生活を送ることができるようになるため
- ②自信をもって学年合唱ができるようになるため

学級委員会代表の菅野緋香俐さんは、「これまで福原中生とのかわり、あまりありませんでした。この交流会で、何か1つでも接点をつくり、来年度に統合しても学年としてやっていける、という希望につながれば、という思いで臨みました」と、交流会にける思いを語ってくれました。

交流会は、スリンプルプログラムを通したアイスブレイクから始まり、双方の距離がグッと縮まりました。

次に、校歌練習。まず、尾花沢中1年生が尾花沢中の「校歌」をモデルとして歌った後、福原中1年生と共に歌いました。親しまれている「Believe」も共に歌い、さらに距離が縮まりました。

最後に、永沢由佳さんが「最初は緊張してあまり話しかけることができなかったけれど、回数を重ねるごとに、どんどん打ち解けてきて笑顔で話せるようになりました。合唱でも向き合って歌うことで心を通い合わせることができたような気がします。次の福原中学校との交流会も楽しみにしています」と感想を發表しました。福中生も「校歌や Believe を歌ったことが思い出に残りました」「尾花沢中の皆さんがいい人たちでよかったです」「統合しても安心して学校に行けると感じました」という感想をもったようです。有意義なひとときとなりました。

今号では1年生の交流を取り上げましたが、2年生も5月に交流会を行いました。7月3日（木）・4日（金）の職場体験も、本校2年生と福中2年生が一緒に行っています。

今年度の目指す学校像のテーマに「福原中を迎え入れる心がまえ」の醸成を掲げています。

「尾花沢中学校の集団の中で自分たちはうまくやっていけるか」という福中生の不安を解消できるのは、私たち尾中生の心がまえ次第です。普段の学校生活での仲間とのかかわりを通して「他人の心の痛みが分かる誠実さ」を身につけることができるよう心掛けてほしいものです。来年度、新しい仲間と学びを共にできることを、楽しみにしています。【文責：校長 工藤雅史】



最初は少し緊張してましたが...



打ち解けてきたようです

福中1年生に
尾中校歌を披露する尾中1年生